

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成23年6月30日(2011.6.30)

【公表番号】特表2010-527981(P2010-527981A)

【公表日】平成22年8月19日(2010.8.19)

【年通号数】公開・登録公報2010-033

【出願番号】特願2010-508909(P2010-508909)

【国際特許分類】

A 6 1 K	45/06	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/02	(2006.01)
A 6 1 P	35/04	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	45/06			
A 6 1 P	43/00	1	1	1
A 6 1 P	43/00	1	2	1
A 6 1 P	35/00			
A 6 1 P	35/02			
A 6 1 P	35/04			

【手続補正書】

【提出日】平成23年5月16日(2011.5.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 3 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 3 7】

インビボでの研究：

SW620腫瘍は文献(Chapter 31(第3章) “In vivo Tumor response End Points” by B. A. Teicher (参照 “Tumor Models in Cancer Research” edited by Beverly A. Teicher, p596. Published by Humana Press Inc. 2002)記載の通り、メスのヌードマウスにて実行した。腫瘍が~170mm<sup>3</sup>に達した時点で処置を開始した。この研究では6群を使用し、n=10匹/群とした。PARP阻害剤、4-[3-(4-シクロプロパンカルボニル-ピペラジン-1-カルボニル)-4-フルオロ-ベンジル]-2H-フタラジン-1-オンは週に5回、50mg/kg(経口)で与えた。CHK阻害剤、5-(3-フルオロ-フェニル)-3-ウレイド-チオフェン-2-カルボン酸(S)-ピペリジン-3-イルアミドは、12.5mg/kgおよび25mg/kgとして、週2回(静脈内)投与した。組み合わせ剤群にはPARP阻害剤を50mg/kg(週5回)で投与し、その2時間後にCHK阻害剤を12.5または25mg/kg(週2回)投与した。マウスは3週間の処置を受けた。全体として、処置には十分に耐え得るものであったが、CHK阻害剤を25mg/kgで投与した群の1匹の例においては、研究の終末点に至る前に死亡したことが判明した。最大の体重喪失%を示す結果を表3に示し、有効性の結果を表4に示す。